

◇ 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

情報が、即時的に遅延なく伝達され処理されることこそ、電脳社会の見えざる目標なのかもしれない。私たちの〈心性〉も知らず知らずのうちに、速度礼賛者^{さん}に変容していく。

時間のかかる手紙に代わって、瞬時に反応する電子メールを使うこと。書店に足を運ぶ代わりに、インターネット上の電子書店で、検索と注文を瞬時に完了させてしまうこと。分厚い研究書や古典をじっくり読む代わりに、電子テキストでキーワード検索しながら、必要な箇所を瞬時に表示させること。思いついたとたんに、相手の携帯に気軽に接続して話してしまうこと。[A] 総じて、私たちは欲^{ほっ}したときに、瞬時に世界とコンタクトをとり、行動していることになる。

(中略) 情報と言っても、速度が情報の価値に大きく関わるものと、そうでないものの二種類があることを忘れてはならない。

例えば、台風やそれに伴う交通の混乱の情報は、タイムラグがなければいほど価値が高く、速度はこの種の情報にとつては本質的である。そして昨日出された台風情報は今日の我々には何の価値も持たない。これに対して、文学や思想の古典的資料などは、伝達速度や時間的経過で価値が極端に変化することはない。

この両者はもちろん、従来、情報と知識という形で明確に区別されてきたものである。[B]、あらゆるものが情報化され、ネットワーク上に蓄積・開示されてしまう今日にあっては、すべては〈情報〉として処理され、この区別は忘却のかなたに追いやられてしまったようだ。

私の個人的体験にすぎないかもしれないが、自分との対話をじっくりと重ねながら学び味わったものは、いわば〈体得〉されたものとして、私に染み付いているが、早分かり方式で仕入れた情報は、私になんの痕跡も残さず、あっという間に消え去ってしまう。

三日で覚えた情報は、三日で消え去ってしまうのである。情報の速度こそが絶対の価値となっている現代においては、〈私〉は成熟していく存在であるよ

りは、瞬間的な反応マシン、つまり、情報が入り込んで流れ出ていく一結節点にすぎない存在になっていくように感じられる。

* ハイデガーは時間の本質を〈時熟〉、つまり、今の継起としてではなく、時間性の成熟と捉えた（『存在と時間』）。^④ 逡巡^{しゆんしゆん}すること、反省すること、あるいは、熟考、熟練などは、情報のインプットに対して、きわめて膨大で無駄に思われるタイムラグのちに初めてアウトプットが生じるたぐいの営みである。これらは瞬間的で切れ切れの今の積み重ねではなく、むしろ時間の成熟によるものだ。

時間がかかる、時間の遅延があることを、すべて〈タイムラグ〉として否定的に捉えたり、スピーデーであることが、私たちの〈豊かさ〉を保証すると考えるならば、^⑤それは根本的な錯誤であるように思われる。無駄な時間を省いて、残った時間で豊かな生活を、と喧伝^{けんでん}されながら、その残った時間もすべて、無駄な時間を省くという心性に汚染され、時熟を味わえないからだ。結局、私たちの生活は、テンポ全体が単にあわただしく加速しているだけなのである。

〈私〉が、便利さや速度の幻惑には徹底的に弱い存在であること、しかし、それにもかかわらず、それに身を委ねることは、〈私〉を徹底的にやせ細った利根的存在にってしまうこと。このことへの自覚は、今日においては決定的に重要であろう。

現代の情報、消費、社会システム全体が、便利さと速さを〈豊かさ〉と称して邁進^{まいしん}せざるを得ない以上、〈私〉は常に情報反応マシン、消費マシンに変形されつつある存在である。だとすれば、時熟や成熟の契機は、外から与えられることを求めるのではなく、〈私〉自身の内側に自覚的に求めていくほかはないのかもしれない。

（注）タイムラグ：時間のずれ。

ハイデガー……ドイツの哲学者。

（黒崎政男「デジタルを哲学する」より） 50

問一 —— 線①「「電腦社会」において、私たちはどのような人間になっていくと筆者は述べているか。本文中から五字で抜き出して答えよ。

問二

□ A・Bに入る最も適当な語を、次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ア しかし
- イ また
- ウ たとえば
- エ つまり
- オ そして

A [

] B [

]

問三

——線②「そうではないもの」の具体的な例として挙げられているものを、これより後の本文中から抜き出して答えよ。

[

]

問四

——線③「従来、情報と知識という形で明確に区別されてきた」とあるが、現在はどうか。本文中の言葉を用いて二十字以内で説明せよ。

問五

——線④について、次の問いに答えよ。

- (1) 「情報のインプットに対して、きわめて膨大で無駄に思われるタイムラグのうちに初めてアウトプットが生じる」とは、どういうことか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。
- ア 大いに手間をかけても、大した成果は得られないということ。
 - イ 自分が期待したこととは異なる結果になりがちであるということ。
 - ウ 長い時間をかけた後で、初めて成果が得られるということ。
 - エ すっかり忘れてしまったところに、ふと思ひ出すものだという事。

[

]

(2)

(1)の要因を表した表現を、同じ段落中から五字で抜き出して答えよ。

問六 ——線⑤について、次の問いに答えよ。

(1) 「それ」が指している内容を、次のような二点にまとめた。「 」に入る最も適当な語を、本文中から抜き出して答えよ。

- ・ 時間がかかることを「 」とし、無駄だと考えること。
- ・ 「 」であれば、必ず豊かになれると考えること。

(2) (1)のような考え方を、筆者が「根本的な錯誤」とする理由として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 何事にも時間をかけたほうが、よい結果を出せるから。
- イ 現代では、時間の無駄を省いても、豊かになれる保証はないから。
- ウ 時間を省くことばかりに執着し、時間をかけて成熟できないから。
- エ 無駄な時間を省いたつもりでも、時間は残っていないものだから。

問七 ——線⑥「刹那的存在」とは、これより前のどの部分を言い換えた表現か。本文中から二十六字で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えよ。

問八 この文章における筆者の主張を、次のア～エから二つ選び、記号で答えよ。

- ア 私たちは、便利さや速さに心ひかれる存在であるが、それらに身を委ねて健康を損なわないよう、自覚して暮らすことが重要だ。
- イ 現代人は、便利さや速さばかりを追いかけていると、自分を単なる瞬間的な反応マシンのようにしてしまうことを、自覚することが大切だ。
- ウ 今日の世界を生きる人は、情報反応マシンや消費マシンとなって、便利さと速さで社会全体を豊かにしていくことに邁進せざるを得ない。
- エ 現代は、社会全体が便利さや速さに邁進しているから、時間をかけて成熟するきっかけは、自分自身の内面に求めていくことになるだろう。

「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」

解答

- 問一 速度礼賛者
 問二 A エ B ア
 問三 文学や思想の古典的資料
 問四 例すべて情報として処理され、区別はない。(十九字)
 問五 (1) ウ (2) 時間の成熟
 問六 (1) タイムラグ・スピーディ (2) ウ
 問七 情報が入りすぎない存在
 問八 イ・エ

解説

問一 「速度礼賛者」とは、「速いことをありがたく思い、ほめたたえる人」という意味である。「礼賛」は「れいさん」ではなく「らいさん」と読むことに注意しよう。

問二 A その段落のここまでの部分すべてを指して「総じて」と述べ、その後で簡潔な表現に言い換えているから、「換言」の接続語を選ぶ。

B 「情報と知識という形で明確に区別されてきた」に対して、「この区別は忘却のあなたに追いやられてしまった」と、くいちがう内容が続いているから、「逆接」の接続語を選ぶ。

問三 「そうではないもの」とは「速度が情報の価値に大きく関わらないもの」ということ。——線②の次の段落の後半に、その具体例が示されている。

問四 ——線③の次の「すべては〈情報〉として処理され、この区別は忘却のあなたに追いやられてしまったようだ」の部分を、簡潔にまとめ直して、二十字以内で解答する。

問五 (1) 「インプット」は入力、「アウトプット」は出力という意味である。つまり、情報を仕込んでから、それを利用した成果が生じるのに時間がかかるということ。

(2) 「時熟」「時間性の成熟」「時間の成熟」などの表現の中から、五字のものを選ぶ。

問六

(1) 「それ」は、直前の部分を指している。タイムラグは「(二つの現象の間に起こる) 時間のずれ」という意味だが、この文章中では「時間の遅れ」に近い意味で使われている。

(2) ——線⑤の後の文に「無駄な時間を省くという心性に汚染され、時熟を味わえないからだ」と述べられているから、その内容を言い換えたものを選ぶ。

問七

「刹那的存在」とは、「その瞬間だけ生まれ消えていく存在」という意味であるから、情報社会においては、「膨大な情報の一つを瞬間的に受け取っては、すぐに忘れる存在」といったあたり方を表すことになる。

問八

ア 「健康を損なわないよう」が不適切である。正しくは「刹那的な存在にならないよう」「自分を見失わないよう」などである。

イ 「自分を単なる瞬間的な反応マシンのようにしてしまうこと」は、文章中の「私」を徹底的にやせ細った刹那的存在にになってしまうこと」と同義であるから正解。

ウ 「情報反応マシンや消費マシンとなる」

〈その結果〉「便利さと速さで社会全体を豊かにしていく」のではなく、「社会全体が、便利さと速さに邁進まいしんしている」

〈その結果〉「情報反応マシンや消費マシンに変形されてしまう」という因果関係である。

エ 最後の段落全体を簡潔に言い換えた文であるから正解。